



永年勤続表彰

中止となった総会懇親会に代わり、この場で永年勤続の表彰者をご紹介させていただきます。(入職順)

祝・勤続15年

谷口 幸子 (ゆうらいふ居宅介護支援事業所)
津田 征志 (リハビリサポートゆうらいふ)



河辺 恭子 (リハビリサポートゆうらいふ)

一緒に頑張るスタッフの支えでここまですることができました。また利用者の皆様に助けがあったからこそ、つらいことも乗り越えることができました。今後も皆様と一緒に楽しい時間を過ごしたいと思います。



祝・勤続10年

明光 ひとみ (グループホームすいれん)



増山 裕喜子 (グループホームすいれん)



職場の上司や仲間たちに支えていただき、そして利用者さんや家族の方からの「ありがとう」の言葉と笑顔に癒され…皆さんのおかげで迎えることができました10年です。ありがとうございます。

祝・勤続5年

宮川 真由佳 (事務局)
中里 光恵 (リハビリサポートゆうらいふ)



劔熊 恵亮 (リハビリサポートすいれん)



尾場 礼子 (ぐるーぷほーむ花梨)



大西 まりえ (グループホームすいれん)



深田 敏明 (リハビリサポートゆうらいふ)



浦岡 ゆかり (ぐるーぷほーむ花梨)



川端 香葉 (ゆうらいふヘルパーステーション)



秀熊 有里 (ゆうらいふ居宅介護支援事業所)



この度は5年表彰していただきありがとうございます。沢山の方からの“支え”と“学び”の5年間だったと感謝しております。今後は、この“学び”を活かしてケアマネとして一歩前へステップアップしていきたいです。

ゆうらいふ

専門職によるコラムコーナー プロフェッショナル リレーコラム

Vol.8

保育士
くにとも さやか
國友 沙弥加



今までの経験を活かし、保育所かきりんで、様々な手作り玩具を作っています。子どもたちが楽しく遊ぶ姿を想像し、年齢や発達に応じて、試行錯誤しながら工夫しています。手作り玩具を子どもたちが夢中で遊んでいる姿を見ると、とても嬉しいです。作ることは小さい時から好きで、今でも手作りアクセサリーやフェルトの小物などを作っています。コロナでマスクが不足している時も、職員の分のマスクを作りました。



発達に応じておもちゃを手作り▶

バトンを渡した人：尾場礼子さん(介護職員) 2020年4月号登場

お知らせ ほっと

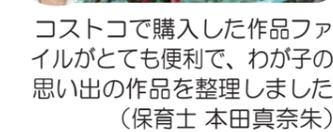
ゆうらいふ銀座

今年5月に、ゆうらいふ銀座 居宅介護支援事業所を立田に統合しました。ゆうらいふ銀座は引き続き、利用者や地域の皆さまの作品を展示するギャラリーと、「なんでも相談」の窓口「ほっとステーション」として活動しています。いつでもお気軽にお立ち寄りください。

私のおうち時間



庭のブラックベリーがたわわに実り、私のおうち時間は収穫&ジャム作りでした♪ (ケアマネジャー 奥野登美子)



コストコで購入した作品ファイルがとても便利で、わが子の思い出の作品を整理しました (保育士 本田真奈朱)



編集後記

『新しい生活様式』にすぐには馴染めそうもない自分にちょっとがっかりしながらも、今は日々を過ごすようにしています。今回のゆうらいふ通信は、新聞記事から“ふっ”と笑えるものを掲載しました。コロナ対策の毎日ですが、ひと息ついていただけましたでしょうか？



ゆうらいふ通信

2020年7月発行



5月、ゆうらいふの廊下に登場した藤棚 皆さんに季節を楽しんでいただくお手つくりの演出です 垂れ下がった藤の花にさわやかな風が通り抜けていました



これまでの豊富な経験と知識、独学で作った「ゆふうたん」手間をかけ愛情いっぱいの自信作をゆうらいふに提供していただきました！



特定非営利活動法人ゆうらいふ

事務局

守山市立田町 1231-4
TEL: 077-585-4070

お気軽に
お電話
ください

【Web】 <http://www.youlife.ne.jp>

【メール】 info@youlife.ne.jp

ゆうらいふ ● 居宅支援事業所 ● デイサービス ● 総合事業 ● 事務局
〒524-0214 守山市立田町 1231-4 ☎ 077-585-4070

すいれん ● グループホーム ● デイサービス ● 保育所
〒524-0001 守山市川田町 1541-4 ☎ 077-581-4606

かりん花梨 ● 小規模多機能型居宅介護事業所 ● グループホーム ● 事業所内保育所 (認可)
● ナースステーション ● ヘルパーステーション ● 定期巡回・随時訪問型訪問看護
〒524-0214 守山市立田町 4135-1 ☎ 077-599-0531

銀座 ● なんでも相談 ほっとステーション
〒524-0021 守山市守山1丁目 6-3 ☎ 077-583-8100

トピックス

ゆうらいふの取り組みや、各事業所の活動、介護の情報など配信中です！



Find us on Facebook

- 2020年度 NPO 法人ゆうらいふ通常総会のご報告
- トピックス
- 18歳と81歳～「笑点」の大喜利ネタより～
- 永年勤続表彰
- コラムコーナー「プロフェッショナル」など



2020年度 NPO 法人ゆうらいふ通常総会のご案内

日時：2020年6月14日（日） 書面開催

本年度の通常総会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面での議決を執り行いました。NPO 会員様 158 名の書面表決および表決委任を持って承認され、すべての議題が可決されました。

2019 年度実績及び 2020 年度計画の主な内容

2019 年度は、創立 20 周年の節目の一年でした。新たな事業では、保育所すいれんを 4 月に開設しました。本事業は、守山市の待機児童解消に貢献するとともに職員確保にも繋がる結果となりました。法人の事業全体では、利用者の延べ数が対前年度 17.4%、公益・収益事業の収益が対前年度 18.3%と、それぞれ大幅な増加を得ました。

2020 年度は、新型コロナウイルスの影響による不安定な社会状況を鑑み、当初年度計画に盛り込む予定をしていた①居宅介護支援事業所及び訪問部門（看護・介護）の事務所統合②保育所かりんの定員増について、見合わせることにしました。感染防止を最優先課題として取り組み、利用者様の健康保持に邁進します。



保育所が 2 か所になり活動内容がより充実しています

新型コロナウイルス感染予防対策

医療サービス部長
吉田 江里



第一波にあって 2 月下旬～5 月には、法人全体で出来得る限りの対策を講じてきました。入居者家族様の面会休止、デイサービスなどの利用自粛など、利用者の皆さまにご迷惑をおかけいたしました。多くのご協力をいただきありがとうございました。

現在は第二波への対策として、日常的な感染予防行動マニュアルを整え、定期的な内容の見直し、各事業所の対策実施状況の確認、職員不安への対応などを実践しています。

- 朝夕の検温と体調確認
- マスク着用・手洗い・換気
- 休憩室の密を避けた利用
- 温度計、湿度計での環境管理
- 来客の検温・手洗い・アルコール消毒・マスク着用協力依頼
- 施設内消毒
- エアコンの清掃



看護師・ヘルパーの訪問時対策

- 訪問前の職員検温
- 訪問時の利用者、家族検温
- 手洗い、アルコール消毒、マスク着用

※本人、家族様の検温をお願いしたり、手洗い時に洗面をお借りしたり、グローブ着用でのケアをさせていただいたり、ご不便・ご迷惑をおかけいたしますが、ご協力をお願いいたします。

対策についてご不明な点は、お気軽に職員へお尋ねください。



▲テレビ電話で家族や仲間との交流を楽しまれています



▲利用者様も日々丁寧な手洗い



▲マシンはアルコール消毒しています

トピックス

手づくりマスクを寄贈いただきました

中町の宇野誠一様より手づくりマスク 150 枚を寄贈いただきました。ガーゼ生地で肌触りの良いものや、ビジネスにも使える淡いブルーやピンクのもの、ファッションに合わせて使える柄やレースのものなど、どれもとても素敵なマスクです。衛生用品の調達が困難な中、このような心遣いは大変ありがたく励まされます。職員で大切に使用させていただいています。



ほっとひと息

『18 歳と 81 歳』

～「笑点」の大喜利ネタより～

- 道路を暴走するのが 18 歳、逆走するのが 81 歳。
- 心がもろいのが 18 歳、骨がもろいのが 81 歳。
- 恋に溺れるのが 18 歳、風呂で溺れるのが 81 歳。
- 偏差値が気になるのが 18 歳、血糖値が気になるのが 81 歳。
- ドキドキが止まらないのが 18 歳、動悸が止まらないのが 81 歳。
- 自分探しをしているのが 18 歳、みんなが自分を探しているのが 81 歳。
- 社会に旅立つのが 18 歳、あの世に旅立つのが 81 歳。
- 早く「20 歳」になりたいと思うのが 18 歳、できれば「20 歳」に戻りたいと思うのが 81 歳。
- 「嵐」といって松本潤を思い出すのが 18 歳、鞍馬天狗の嵐寛寿郎を思い出すのが 81 歳。

さすが笑点の落語家さん！オリジナルのネタを思いついた方は、職員まで。

朝日新聞四コマ漫画「ののちゃん」より

クスッと笑ってしまうのは、少なからず似たような経験があるからでしょうか。

▼日本経済新聞「あすへの話題」より 作家 嵐山光三郎 2020.6.20

噛み合わない会話も、相手あってこそ。一緒に食事をしながら話せる幸せを感じますね。

忘れちゃったのよ
 しゃれた和風レストランができたので、小学校同級生のハル子さんとミチルさんをお呼んだ。ハル子さんが、タケノコを食へながら「忘れちゃったわ」と言った。ミチルさんが「なにを忘れたの？マスク？バッグ？財布？」それが、なにを忘れたのか、忘れたのよ。3秒前に考えていたことなのよ。「じゃあ、そのまましておけばいいのよ。わたしなんか、こないだ家を忘れたんだから」「落とししたの？」「落とすわけないでしょ。家の持ち歩けないし」「自宅の場所を忘れたの？」「場所じゃないの、駅から家へ帰る道を忘れたのよ」「道はそこにあるものでしょ。目の前に忘れようがない」「だから地図ですよ。裏道へ入って、地図を忘れたの。失礼ね」「地図は大学通りの書店へ行けば売ってます」「頭のなかにある地図よ」「頭のなかに地図なんて入れたいわい」
 まあまあ、とぶたりの御婦人をなだめた。口論になると、おぼろやまはひかない。ぼけているのに口さきだけ達者で、ぼけ体験は高齢者の自慢合戦となり、聞かされるほうはたまったものではありませぬ。人の名を忘れた。朝食がなかったか忘れた。孫の顔を忘れた。借りたお金を忘れた。死んだ夫の名を忘れた。けんなりするが、ぼけたほうは話をすると気がすむらしい。
 6月になり、梅雨入りすると、ぼけ具合もいっそう盛んになる。食事が終わったとき、ハル子さんが「あ、思い出したわ」と言って廊下をトコトコ歩いてトイレへ行った。「トイレへ行くのを忘れていた。これですっきりしたわ」とのことでした。

防災用に発電機を購入しました

6月4日、ゆうらいふの3拠点に1台ずつ、災害時の電源確保のための発電機を配備しました。社会福祉法人滋賀県共同募金会様が「赤い羽根共同募金」から支援をいただき購入したもので、カセットコンロ式の取り扱いやすく持ち運びがしやすいものを選択しました。

納品時には電気屋さんから使用方法の説明を受け、使用マニュアルを準備しました。非常時には適切に活用できるよう、日々の訓練にも取り組んでまいります。

